

普及項目	増殖
漁業種類等	採貝業
対象魚類	アサリ
対象海域	熊本有明

玉名市滑石地先におけるアサリ増殖の取組支援

県北広域本部水産課・高日 新也

【背景・目的・目標（指標）】

当水産課では、アサリ母貝場の造成手法を検討するため、令和2年度（2020年度）から管内において、稚貝を種もみ袋で保護する広島県の大野方式網袋採苗（以下「大野方式」という。）及び土のう式被覆網（以下「被覆網」という。）を組み合わせたアサリ増殖の現地試験を実施している。

また、玉名市滑石地先において、平成30年度（2018年度）以降アサリの漁獲実績がない状況にある。そこで、この地先においてアサリの漁獲再開を目指し、アサリ資源を回復させるため、大野方式及び被覆網の技術指導を開始した。

令和3年度（2021年度）は、この地先において漁業者を主体としたアサリ増殖の取組みを開始させるとともに、資源回復に向けた取組みの方向性を確立することを目標として、令和3年（2021年）6月以降、1回/月の技術指導を行うこととした。

【普及の内容・特徴】

令和3年（2021年）5月、滑石漁協組合員が実施した二枚貝資源状況調査に当水産課も同行し、アサリ稚貝が高密度に発生している地点を確認した。

また、同月にこの調査結果を取りまとめ、漁協に対して説明を行い、大野方式及び被覆網によるアサリ資源回復の取組みの開始を促したところ、6月から、漁業者を主体とした取組みが開始されることとなった。

加えて6月には、滑石漁協が滑石地先の複数地点に大野方式450袋及び被覆網を設置することを決定。当水産課は、その設置に係る技術指導を行った。また、7月以降、漁業者とともに月に1回の頻度で経過観察を行った。

【成果・活用】

漁場内の複数地点に設置した大野方式の網袋は、令和4年（2022年）1月までに最大で150個/袋の稚貝の保護に成功した。しかし、設置した地点によっては、網袋内の稚貝が消失したり、網袋が波浪によって逸散したりと、設置場所及び方法に改善の余地が認められた（図1）。

また、従来漁場の東側に設置した被覆網は、令和4年（2022年）1月時点で1,300個/m²の稚貝の保護に成功し、その殻長は平均27.3mmに成長していた。一方、近傍の対照区で稚貝は確認されなかった。そのため、被覆網による高い保護効果に対して、漁業者からは多数の驚きの声が聞かれ、本取組みに対する意欲の向上が感じられた（図2及び図3）。

次年度以降は、この結果を活用し、被覆網を主体としたアサリ資源回復の取組みについて、継続的な技術指導を行う予定である。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

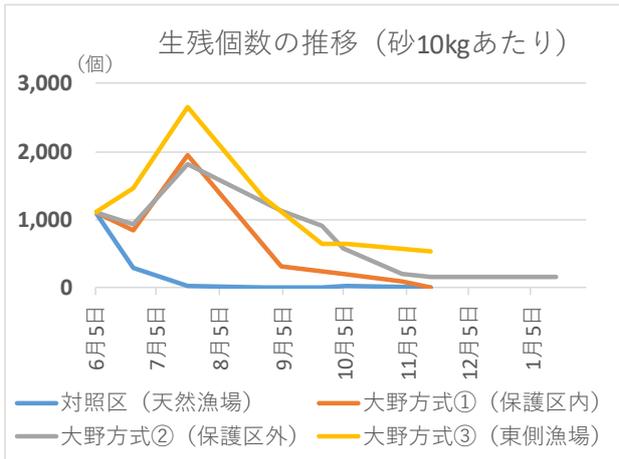


図 1 生残個数の推移 (大野方式)

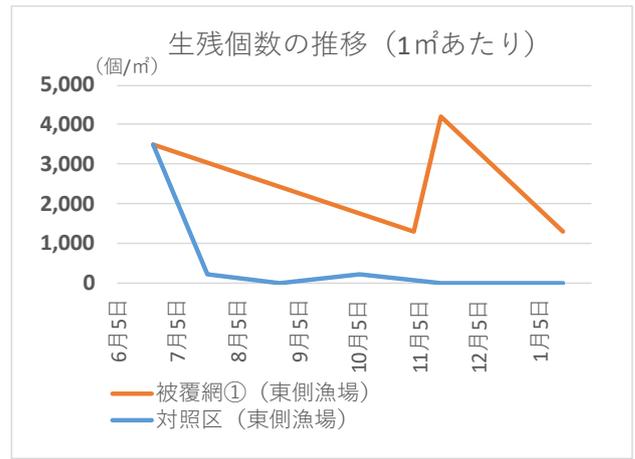


図 2 生残個数の推移 (被覆網)

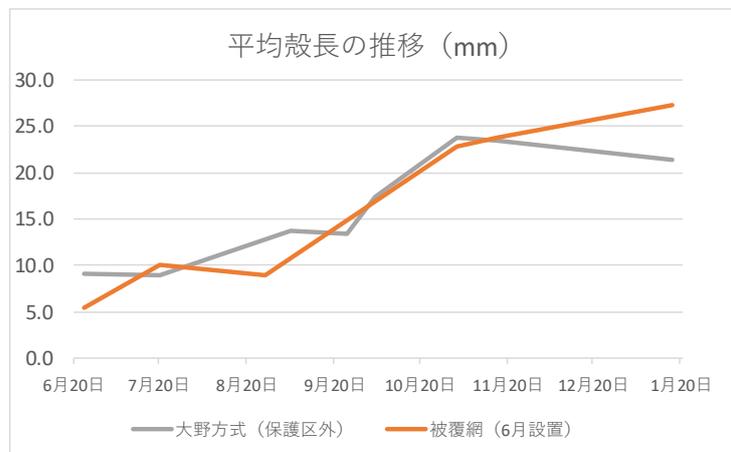


図 3 平均殻長 (mm) の推移



図 4 大野方式の設置 (R3. 6. 7)



図 5 被覆網の設置 (R3. 6. 8)



図 6 大野方式のアサリ (R4. 1. 17)



図 7 被覆網のアサリ (R4. 1. 17)